

# 神戸女学院大学 人間科学部 心理・行動科学科 精神保健福祉士養成課程 ニュースレター

第1号

## 2022年度 精神保健福祉士 養成課程 スタートしました！

コロナ禍で3年目の春を迎えました。

今年度も精神保健福祉士を志す3・4回生の活動をメインに広報いたします。今回は各学年の授業風景をお伝えします。

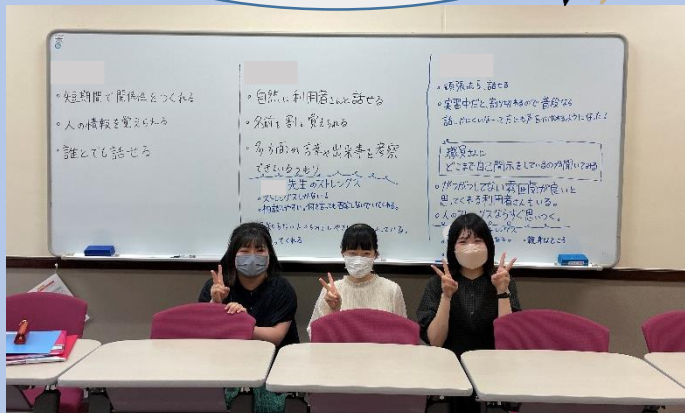
**4回生の実習指導Ⅱ**では、実際に地域事業所での実習が始まる前に、3回生の時に作成した実習計画書も参考にしながら、各自の短期目標を設定し共有したり、障害福祉サービスについて学び直しました。今年度は3名ともが同時期に実習を開始できたため、クラスメイトの工夫している点や実習指導者の方に教えていただいた内容を共有・意見交換するなど毎週90分授業があつという間に過ぎていきます。

ある日の授業では、地域事業所での実習体験を通して、自分自身が気づいたり、利用者の方や実習指導者の方に評価いただいた自分の長所について考え、共有しました。

先生より課題を告げられホワイトボード前に立つも「難しい...」「相手のことはたくさん出てくるのに...」「実習中、そのように評価してもらえる機会があり、新たな長所に気づくことができた」等、各自のペースで書き進めていきました。

精神保健福祉士の倫理綱領を基盤に、それぞれの体験をしっかりと各自で振り返り・考察する歩みをこれからも大切に続けてほしいと思います。

昨年まで遠隔化の授業が多かった4回生。直接顔を見て、雰囲気を感じながら受けられる授業のありがたさを再認識できた、との声も★



**3回生の援助演習(基礎)**は、2クラスに分かれて開講しています。

ある日の授業では、SSTについて学びました。SSTとは、Social Skills Training(生活技能訓練)の略です。自分の“考え”、“気持ち”、“要件”を上手く伝えるための【スキル】を学び、社会的ストレス(生活上の困難)に対処する力を向上させ、再発防止や回復の一步になることを目的に行われます。精神科病院だけでなく、就労関係の事業所でも行われることがあります。

事前にSSTのロールプレイとして各自で取り組みたい課題を2つ挙げました。リーダー、コリーダー、相手役など課題ごとに役割を交代しながら取り組みます。

ある課題では、アルバイト中の困った場面について取り組みました。課題を挙げた学生が、ロールプレイでも本人役として参加します。相手役を決め、実際の場面で行われた会話のやり取りをします。場面を見終わった後に、全員で良い点を褒めます。そして、各自でさらに良くするための提案を挙げます。課題を挙げた学生が、どの提案を活用しながらロールプレイを行いたいのか決め、再度ロールプレイを行います。そして良いところを褒め、同様の機会があれば実践してみるよう宿題を設定するところまで行いました。

最初は照れながら取り組んでいましたが、ロールプレイを重ねるごとに真摯な表情で良い点・改善点を挙げる姿が印象的でした。



- ・後期は3回生が学外実習、4回生は実習報告会を控えています。
- ・心理・行動科学科 1・2回生の方で、精神保健福祉士を目指したい方は、9月9日(金)実施の後期登録ガイダンスにご参加ください。(養成課程の教員より資格に関する説明を行います)

# 神戸女学院大学

## 人間科学部 心理・行動科学科

### 精神保健福祉士養成課程 ニュースレター

第2号

#### 大阪府 東大阪市にある小阪病院へ見学実習をさせていただきました。



9月下旬より後期授業が開始しました。今回は3回生の授業(精神保健福祉援助実習Ⅰ)の様子をお伝えします。

さわやかな秋晴れのもと、今年度も小阪病院にて見学実習をさせていただきました。

実際にデイケアセンター及び地域生活支援センターの建物を訪れることができました。デイケアでは各グループのお部屋に入らせていただき、機能や役割の違いについて実際に目で見て感じることができました。また、座学では学びきることのできない、生活訓練を受講されている利用者の方の熱心な姿勢を拝見し、現場の“リアル”を身をもって感じられる場面でした。

初めての見学実習ならびに、多数の精神保健福祉士の方と会いする機会に、緊張感が持続していた様子でした。



#### 学生からPSWのみなさまへ質疑応答(一部ご紹介)

Q1: 関係機関との連携の際に意識していることは何ですか？

A1: クライアントの強みを伝えること。そのためにはクライアントをしっかりと理解する必要があり、日頃からの関係構築が重要となる。

Q2: 精神保健福祉士としてのやりがい・従事してよかったと思える瞬間は？

A2: “これが自分の強み”と思いつけるのではなく、紡いでいくようなイメージ。時にはしんどいこともあるが、諦めず、腐らないこと。“私だからこの支援ができた”という自己満足ではなく、クライアントが自ら相談できる場所や力を養われたと気づけた瞬間。



Q3: 来年の精神保健福祉援助実習に向けたアドバイス

A3: 様々なことに興味を持つこと。「知りたい!」「やってみよう!」と、楽しむ気持ちを持って。良い意味で遠慮をしないこと。

実習では毎日振り返り(フィードバック)をしていただけるが、就職してからは通常行われない貴重な経験。自ら学ぼうとする姿勢を大事にしてほしい。

大変お忙しい中、学生のために貴重なお話と見学のお時間を設けていただき、心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

# 神戸女学院大学

## 人間科学部 心理・行動科学科

### 精神保健福祉士養成課程 ニュースレター

第3号

大阪府 吹田市にある榎坂病院とオンライン見学実習をさせていただきました。



3回生の授業(精神保健福祉援助実習Ⅰ)において、今年度もオンライン(Zoom)より見学実習をさせていただきました。

吹田市の精神科単科病院は榎坂病院のみであることから、行政機関や地域事業所等との連携に力を入れていることを学びました。そして長期入院に関心のある学生が複数いたため、服部先生が携わられた退院支援のお話をお聴きすることもできました。外来・病棟・デイケアの業務のみならず、服部先生が精神保健福祉士として大切にされている価値観等非常に多くの質問を細やかにご答えいただき、全員で熱量を実感できた時間でした。



#### 学生からケースワーカー服部先生へ 質疑応答(一部ご紹介)

Q1: 榎坂病院ならではの取り組みはありますか？

A1: コロナ流行前は院内茶話会として、地域生活に目を向けてほしい患者様に参加していただいた。実際に退院に結び付いたケースもある。

Q2: 精神科病院で働く精神保健福祉士に向いている人はどのような人だと思われますか？

A2: 偏見を持っていたとしてもそのことに気づいている人。また、患者様の視点に立てる人。

Q2: 患者様とうまくコミュニケーションが取れない場合はどのようにして関係性を築きますか？

A2: 空間を共有することから始める。コミュニケーションそのものに苦手意識を持っている方もいるため、何となく相談しやすい空気を受け取ってもらう。

Q3: 長期入院患者様の退院支援に関して、どのようなことに難しさや壁を感じますか？

A3: 病棟で困っていることはなく、(時間に決まりはあるが)外出も可能な患者様にとって辛い環境から地域生活(=退院)へ意識が変わるまでに時間を要する点。

#### 実習後、参加した3回生の感想



★精神保健福祉士の業務内容について、具体的な1日の流れやスケジュールを知ることが出来て良かった。

★患者様個々人を見るだけでなく、多職種を巻き込む力が精神保健福祉士に必要だと思った。

★病名が同じでも個々人で見るといってお話が印象的であった。診断名=〇〇と判断してしまいそうなので、気をつけたい。

★コロナが流行する前に出来ていたプログラムが、現在は出来ていないことを知った。情勢に応じて新しいことを考える必要性を感じた。

★働く上で公平性を意識しているお話が印象的であった。どのような人であっても無意識に好き嫌いを考えずに関わられるようになりたい。

★患者様と早く打ち解けたい・関係を築きたいと思っていたが、1から作り上げることの大切さを学んだ。

★格好良い精神保健福祉士だと思った。言語化する力に感心した。

大変お忙しい中、ご対応いただきましたケースワーカーの服部先生に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



# 神戸女学院大学

## 人間科学部 心理・行動科学科

### 精神保健福祉士養成課程 ニュースレター

第4号

#### 4回生による精神保健福祉援助実習 実習報告会を開催しました！



12月3日(土)、4回生3名による精神保健福祉援助実習 実習報告会が行われました。

今年度は初の試みとして対面×Zoomのハイブリッド型を導入。そして、実習指導者の先生方にもお声掛けさせていただき、対面・Zoom両方からご参加いただきました。

実習報告会終了後は、OG生、3・4回生の養成課程学生、教職員とで3年ぶりに交流会を開催しました。3回生から4回生へは就活のアドバイスや実習の悩み等、実習報告会とは異なる近い距離感で交流することができました。また、OG生へ実際の業務についてリアルに聴くことができる時間となりました。



#### 4回生への質疑応答(一部ご紹介)

Q1:【実習生だからこそできる介入】とは具体的にどんな介入だと考えられましたか？

A1:利用者の方の良いところを挙げる。例)休み時間に話した内容を私には挙げる事ができる  
対等な立場で話が出来たことから、その方のストレングス(強み)を広げることができたと思う。

Q2:実習を通して支援者には何を求められていると感じましたか？

A2:利用者の方に言われたことをその通りする、問題解決をするのではなく、希望する生活に近づくように一緒に協力していくことが求められていると感じた。



4回生の実習発表後は、OGゲスト講師として倉見さん(13期生 ヤンマーシンビオシス株式会社・精神保健福祉士)と原田さん(18期生奈良市役所・精神保健福祉相談員)をお招きしました。

実際の業務や仕事をする上で大切にしていること、就活などをお話くださいました。質疑応答の時間が足りないほど、在学生からたくさんの質問が寄せられました。今後も実習報告会が、現場で活躍されているOGのみなさんと在校生との繋がりを持てる良い機会になれば嬉しく思います。

#### 学生からOG講師への質疑応答(一部ご紹介)

Q1:前職の時から大切にされていることに変化は

ありますか？また今後大切にしたいことはありますか？

A1:前職で大切にしていた【“専門職”ではなく“1人の人間”として関わる】は、今は対人援助の大前提として認識している。10年以上経験を積んだ今も、社会人1年目と同じ感覚ではいけない。今は、学び続けることを怠らず知識の幅を広げ、“専門職”として会社のニーズに応えられるよう準備しておくことが大切だと思っている。

Q2:(実習に行くまでPSWとして働くか決めていなかったとのお話から)病院や事業所ではなく、行政で働くことを決めたいきっかけは何ですか？

A2:病院も考えていたが、広いフィールドで関わってみたい気持ちがあった。今は行政のPSWで良かったと思っている。

大変お忙しい中、ご参加くださいました実習指導者の先生方、OGのみなさまに心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

# 神戸女学院大学

## 人間科学部 心理・行動科学科

### 精神保健福祉士養成課程 ニュースレター

第5号



第130回 大精診市民講演会・第19回 みなとこころの講座に  
参加させていただきました。

3回生の授業(精神保健福祉援助実習Ⅰ)において、  
講座に参加させていただきました。

テーマは【聞いてみよう 高次脳機能障害のこと】  
堺市にて高次脳機能外来を診療されている、  
なやクリニックの納谷先生よりお話を伺いました。

#### 参加した3回生の感想

★脳の障害は大きく分けて4種類あり、その中でも  
脳損傷はさらに体・心理・精神への障害が出るとい  
う話が印象に残り、脳機能の重要さがわかった。

★本人が失語症などでコミュニケーションをとること  
が困難であっても、本人に話しかけて話す機会  
を設けることが大切である言葉がとても印象に  
残った。

★参加者の方が相談された内容に対し、どうにも  
できない苦しさや印象に残った。自分なりに解決策  
を調べて考えてみたが、ノートなどを活用して文字  
でのやり取りをすることくらいしか思いつかなか  
った。失語症の方とどのように意思疎通をするのか、  
支援の仕方も知りたいと思い、今後調べてみよう  
と思った。

★体の機能の障害に加えて、うつ病ややる気が出  
ないなど、精神の症状が出ることを初めて知り、心  
の支えも重要であると感じた。

★以前当たり前にできていたことができなくなるこ  
とは、ショックを受けるとともに、受け入れることが  
非常に難しいように感じられた。そのため、周りの  
人が寄り添うことはとても大切だと思った。そして、  
当事者の方同士での関わりがよりリハビリに効果  
をもたらしたり、悩みを共有できるメリットがあると  
知り、繋がりを作ることは改めて重要なことだ  
と思った。



講演後は、主催機関の1つである特定非営利活動  
法人 障害者の福祉を進める会みなと グリーング  
(就労継続支援B型事業所)において、精神保健福祉  
士として従事されている難波様に学生からの質疑応  
答をお答えいただきました。  
その一部をご紹介します。

Q1:障がいのある方の就労支援において、難波さん  
が思う一番の課題は何ですか？

A1:「働かざるもの食うべからず」という言葉が使われ  
たりするが、働きたくても働けない時があるので、  
その時に必要以上に後ろめたさを感じないで済む  
ような社会通念があって欲しい。

Q2:他機関との連携について、具体的にどのような  
機関とやり取りしていますか？

A2:訪問看護、ヘルパー、区役所、社協、主治医、  
お客様、お仕事を依頼してくださる方。時には  
商店街関係のグループとやり取りすることもある。

Q3:お仕事をされる中で、どのような時にやりがいを  
感じますか？

A3:就職のお手伝いや、結婚式に呼ばれることも嬉し  
くやりがいをを感じるが、日々の「おはよう」と声を掛  
けられるだけでもやりがいをを感じる。

参加をお受けいただきました主催者のみなさま、納谷先生、難波様に  
心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

